

泰卓で小中学生「山賊キャンプ」 岐阜の若手社員が相談役に



川遊びに歓声を上げる子どもたち。多くのボランティアが相談員としてかかわる。泰卓村の左京川で

泰卓村のNPO法人グリーンウッド自然体験教育センターが主催する「信州こども山賊キャンプ」が十八日から始まり、大勢の子どもたちの歓声が豊かな自然の中に響いている。今年も、岐阜県恵那市の企業ナカヤマグループが、十六人の若手社員を二回に分け、子どもたちの相談役を務めるボランティアとして派遣。社員研修の場としても生かしている。

キャンプは三泊四日から十一泊十二日まで、各コースが八月末まであり、全国から千五百人以上の小中学生が参加する。生活のルールや日程は子どもたちの話し合いで決めるが、学生や社会人ボランティアも例年数多く参加している。

ナカヤマグループは三泊四日の三コースに入社一、二年目の若手社員を派遣。二十七日からの日程に参加した山田崇実さん(こと)は、元氣に川遊びする子どもを見守りながら「子どもたちと触れ合い、コミュニケーション力を高めるよつ頑張りたい

2015年

山賊キャンプ参加記事

南信州新聞

企業が社員研修に活用

山賊キャンプ 契約農家は「やりがい」と笑顔

泰卓村の山賊キャンプは、自然体験教育センターが主催する。夏の信州こども山賊キャンプが、今年も八月十八日から始まり、大勢の子どもたちの歓声が豊かな自然の中に響いている。今年も、岐阜県恵那市の企業ナカヤマグループが、十六人の若手社員を二回に分け、子どもたちの相談役を務めるボランティアとして派遣。社員研修の場としても生かしている。

山賊キャンプは、信州こども山賊キャンプの山賊キャンプ。多くのボランティアが相談員としてかかわる。泰卓村の左京川で川遊びに歓声を上げる子どもたち。

山賊キャンプは、信州こども山賊キャンプの山賊キャンプ。多くのボランティアが相談員としてかかわる。泰卓村の左京川で川遊びに歓声を上げる子どもたち。



地元産からカボチャやタマネキなどの野菜を受け取る子どもたち



泰卓の子どももキャンプ最盛期に

泰卓村のNPO法人グリーンウッド自然体験教育センターが県内外から受け入れている「2015夏の信州こども山賊キャンプ」が最盛期だ。子どもたちは同センターの宿泊「暮しの学校」にいらほつちや左京川キャンプ場で料理を作ったり、川遊びをしたり。今夏は8月末までに県内や東京、名古屋などから約1100人が参加予定で、学生や会社員など約300人がスタッフとして関わっている。

28日は7泊8日コースの参加者28人のうち1人が田中の農家中農協時さん(84)をシャカイモカボチャ、タマネキを受け取った。同センターは村内14の農家とからキャンプで使う野菜を仕入れている。その一人の中農さん(84)は「子どもがいては喜ぶかな方がいい」。シンカボルの小学校に通う丸山花菜さん(11)は「いっぱい野菜を分けてもらった。大切に食べて食べたい」と話した。

左京川キャンプ場で30日まで滞在する3泊4日コースには86人の子どもと交つて大人の姿も。岐阜県中津川市の会社員、吉田真真さん(49)は社員研修として参加しているといい、「一人の子どもを教える他の子の手が回らなくなる」と話した。

同センター代表理事の辻英之さん(45)は「キャンプが子どもたちと一緒に行きたくて、大人たちも困難に立ち向かおうと奮闘している」と話している。